

畜産みやぎ

題 字
宮城県知事 村井嘉浩
発 行 所
仙台市宮城野区安養寺三丁目11番24号 一般社団法人 宮城県畜産協会 電話 022-298-8473
編 集 発 行人
高橋 正
印 刷 所
(株)東北プリント



育成牛舎



丸森町子牛育成センター竣工式 (令和3年5月20日 丸森町町営放牧場)

もくじ

CONTENTS

令和3年度畜産業振興事業について..... 2-3	畜試だより..... 10-11
令和3年度宮城県畜産協会事業の概要について..... 4-5	人の動き..... 11
丸森町子牛育成センター完成..... 6	衛生だより..... 12
仙台市中央卸売市場食肉市場 業務開始46周年記念枝肉共進会の受賞結果について..... 7	令和3年度宮城県総合畜産共進会開催のお知らせ..... 12
令和4年度宮城県農業大学校入校生を募集 (推薦入校試験)..... 8	価格安定対策事業の発動状況について..... 12
農業大学校生の抱負..... 8	
new face 9	



みやぎの
畜産情報
発信基地

宮城県畜産協会ホームページ

U R L <http://miyagi.lin.gr.jp>

畜産みやぎは上記ホームページからもご覧いただけます。



令和3年度畜産業振興事業について

宮城県農政部畜産課

畜産業振興事業は、「独立行政法人農畜産業振興機構法」に基づき、畜産振興について多岐にわたる事業を農畜産業振興機構が実施しているものです。

機構から補助を受けるのは、公募により選ばれた全国団体がほとんどですが、県域団体を通じて農協や畜産経営者も間接的に補助を受けることが可能です。

今年度拡充された事業や災害時の緊急対策、新型コロナウイルス感染症対策事業（畜産支援対策）について紹介します。

1. 今年度拡充された事業

事業名	事業目的	事業内容
酪農経営支援総合対策事業（拡充） 4,566百万円	我が国の酪農は、高齢化等により酪農家戸数や飼養頭数が減少し、後継牛不足も深刻化するなど生産基盤の弱体化が進行している。このため、生産者集団等が行う地域の創意工夫を生かした取組を支援し、担い手や乳用後継牛を確保していくとともに、経営の持続性の向上を図り、地域の実情に応じた酪農生産基盤の維持・強化を図る。 補助率（定額、2/3、1/2、1/3以内）	(1) 中小酪農経営等の生産基盤維持・強化 ①後継牛確保のための環境整備 後継牛の育成等のための簡易畜舎整備、機器導入、つなぎ牛舎の改良、育成牛の事故率低減（ワクチン1千円/頭）、供用期間の延長支援（肢蹄保護、乳房炎ワクチン等、1千円/頭）、後継者への経営基盤強化（初妊牛導入5万円/頭）、暑熱ストレスの軽減、乳用牛の地域内継承・育成牛の地域内流通促進（奨励金3万2千円/頭）、増頭に必要な牛舎の空きスペースの簡易な整備、 <u>都府県の自家育成中小農家の生産基盤強化（自家生産子牛増頭5万円/頭）</u> 等の取組を支援する。 ②地域の生産体制の強化 生産基盤が脆弱な地域において持続的な生乳生産体制を確保するため、(ア)経営離脱農家等を研修施設として活用した担い手の確保、(イ)将来にわたって持続可能な経営体の創出、(ウ)後継牛の地域内生産、(エ)後継牛育成のための広域預託を推進する取組等を支援する。 (2) 酪農ヘルパーの利用拡大 ①酪農ヘルパーの職業認知度向上、 <u>修学支援</u> 、学生インターンシップの受入、人材コンサルタントの活用、就業前後の研修や外国人材の活用等の人材確保・育成、②傷病時等の利用料金を軽減するための互助基金制度及び③広域利用調整、 <u>酪農ヘルパーの待遇改善や利用組合の経営改善等の利用組合強化</u> の取組を支援する。 (3) 生乳流通体制の合理化の推進 生乳流通コストの生産者負担を軽減するため、生乳生産者団体等が行う「生乳流通合理化計画」等の検討・作成、生乳流通関係機器のリース導入、貯乳施設の減容化・需給調整機能を持たせるために必要な補改修、乳代精算方法の効率化等の取組を支援する。 (4) 生乳需要基盤の確保の推進 国産牛乳製品の消費の維持・定着を図るため、消費者等への酪農理解醸成活動、牛乳製品の新たな利用場面の普及や価値訴求、生産者自らが製造する牛乳製品の需要拡大のための技術研修や販路拡大等の取組を推進する。 (5) 乳用牛の計画的な改良・増殖の推進 牛群検定組合等が行う遺伝情報（SNP）データの収集等の取組、乳用牛の飼養管理に係る技術指導等を支援する。
肉用牛経営安定対策補完事業（拡充） 3,636百万円	肉用牛生産は中山間地域や離島等の基幹的な農業部門のひとつとして、地域経済の活性化に重要な役割を果たしてきたが、小規模・高齢者層を中心とした生産者の離脱等から生産基盤の脆弱化が危惧されている。 このため、繁殖雌牛の増頭の取組や遺伝的多様性に配慮した繁殖雌牛の確保、交雑種雌牛を活用した和子牛生産（一産取り肥育）の普及・定着、担い手の育成等を支援することにより、生産基盤の強化を図る。 補助率（定額、1/2以内等）	(1) 肉用牛生産基盤強化対策 ①優良な繁殖雌牛の増頭による中核的な経営体の育成を支援する。 増頭奨励金：8万円/頭、10万円/頭（能力の高い牛） ②遺伝的多様性に配慮した繁殖雌牛及び優良な繁殖雌牛の導入を支援する。 導入奨励金：多様性6万円/頭、9万円/頭（希少系統） 優良4万円/頭、5万円/頭（能力の高い牛） ③繁殖雌牛の増頭に資する簡易牛舎（ <u>育成牛の簡易牛舎を含む</u> ）や子牛の健康維持に資する器具機材等の整備に対して支援を行う。 ④肉用牛ヘルパーの推進を支援する。 ⑤多様な担い手の育成を支援する。 ⑥特定地域における肉用牛の処理を支援する。 ⑦一産取り肥育の普及・定着に向けた取組を支援する。 ⑧和牛精液等の流通管理を周知・徹底する取組を支援する。 (2) 地方特定品種並びに離島等及び山振地域の肉用牛振興対策 ①地方特定品種の特徴を活かした生産や放牧利用の拡大、飼養頭数の増頭等を推進するための取組を支援する。 ②離島等及び山振地域における肉用子牛の集出荷を促進するための取組を支援する。

事業名	事業目的	事業内容
		(3) 肉用子牛流通等対策 ①家畜商組合等が行う、金融機関から借り入れた資金を活用した肉用子牛等の預託を促進するための奨励金を交付する。 ②家畜商組合等が借り入れる預託牛の導入資金に係る債務保証及びその代位弁済を行う取組等を支援する。 ③肉用牛の購入先の多様化を図るため、生産者が遠隔地の肉用牛を購入することをサポートする仕組みの構築を支援する。

2. 緊急対策

事業名	事業目的	事業内容
畜産経営災害総合対策緊急支援事業 4603百万円	令和2年度の7月豪雨等により、畜舎等の一部損壊や機器の故障、停電による家畜の損耗、自給飼料の生育不良や倒伏、冠水などの被害が発生したことを受け、被災した畜産農家の経営継続のため、簡易畜舎の整備、被災畜舎・機械等の補改修、一時的な家畜の避難、家畜の再導入、乳用牛の乳房炎対策、停電対策、自給飼料の品質低下を抑制するための発酵促進資材や不足する自給飼料の代替粗飼料の共同購入等を支援する緊急対策を講じるとともに、停電時においても家畜の生命維持や生乳の生産・流通等に必要な機械を稼働させるための非常用電源の整備等を支援し、畜産物生産の安定化に資することとしたところである。 これらの支援について、畜産農家の被災状況、資材等の確保に要する期間、自給飼料の収量減少等の影響を受ける期間を踏まえ、令和3年度においても継続して実施する。 補助率(定額、1/2以内)	(1) 酪農経営災害緊急支援対策事業 (2) 肉用牛経営災害緊急支援対策事業 (3) 養豚経営災害緊急支援対策事業 (4) 家さん経営災害緊急支援対策事業 [(1) ~ (4) に係る事業内容] ①災害緊急支援 i) 簡易畜舎の整備、畜舎・飼養管理機械等の補改修、土砂・がれき等の撤去(※1)等に対する支援 ii) 緊急的な家畜の避難等に要する経費に対する支援 iii) 繁殖用家畜の導入に対する支援 iv) 乳房炎対策等に対する支援(※2) v) 停電対策に対する支援(※1) ②非常用電源の整備に対する支援(※1) (5) 粗飼料確保緊急対策事業 ①サイレージの品質低下防止対策に対する支援 ②代替粗飼料の共同購入に対する支援 ※1 (4) 家さん経営災害緊急支援対策事業では、土砂・がれき等の撤去、非常用電源の整備に対する支援を実施 ※2 乳房炎対策等に対する支援は、(1) 酪農経営災害緊急支援対策事業でのみ実施

3. 新型コロナウイルス感染症対策事業(畜産支援対策)

事業名	事業目的	事業内容
発生畜産農場等経営継続対策事業 77百万円	農場の経営者等に新型コロナウイルス感染症が確認された場合、経営者等が一定期間隔離され、家畜の飼養管理や搾乳等が困難となり、家畜が飼養できなくなるなどの恐れがあるため、代替要員の派遣や家畜の公共牧場への避難等を支援する。 補助率(定額)	(1) 代替要員の派遣等に対する支援 発生農場の事業継続のための代替要員(酪農ヘルパーを含む)の派遣等を支援する。 (2) 家畜の公共牧場等への緊急避難、委託管理等に対する支援 発生農場の事業継続を図るため、その家畜を公共牧場等に緊急避難させるための経費を支援する。 (3) 農場等清浄化・感染拡大防止に向けた消毒等経費に係る支援 発生農場の清浄化や感染拡大防止のための消毒等に係る経費を支援する。 (4) 出荷できない生乳に対する支援 乳業工場の処理能力の低下等により出荷できなくなった生乳に対して支援する。

※1 令和3年度畜産業振興事業の概要 https://www.alic.go.jp/c-kanri/shinko01_000092.html
農林水産省HP https://www.maff.go.jp/j/chikusan/kikaku/lin/l_zigyo/attach/pdf/201210-21.pdf
新型コロナウイルス感染症対策について https://www.alic.go.jp/c-kanri/shinko01_000897.html

※2 下線部は令和2年度から拡充、変更されたもの

(企画管理班 三石 絵里加)

令和3年度宮城県畜産協会事業の概要について

一般社団法人 宮城県畜産協会

本県の畜産は、食生活の多様化等を背景とした需要に支えられ、本県農業産出額の約4割を占める農業の基幹作物として重要な役割を果たしており、良質な畜産物を消費者に安定的に供給する畜産主産県としての地位を確立しています。

昨年は、新型コロナウイルス感染症のまん延により、国内でも様々な業界に影響を及ぼし、世界経済にも深刻な打撃を与える事態となりました。畜産業においても、食肉の枝肉価格の低迷や子牛価格の下落など、大きな打撃をもたらしました。現在は、相場も持ち直しているものの、新型コロナウイルス感染症の終息に目途が立たず、今後も先行き不安な状況が続いています。

国際関係においては、TPP11や日EU・EPA、日米貿易協定に加えてRCEPも合意し、世界に農畜産物市場を開くこととなります。一方で農政改革や国内農業の競争力強化対策も図られていますが、生産基盤の弱体化が止まりません。

国会としては、「自由貿易時代」「ポスト・コロナ時代」の国内農畜産業を維持・発展させていくため、国や県・関係団体等と連携し、肉用牛の増頭対策をはじめとする畜産経営基盤の体質強化を図るための諸事業、新型コロナウイルス感染症及びTPP関連対策事業等の各種緊急支援事業、及び生産性の高い畜産経営体に対する経営支援指導、価格安定対策、家畜衛生対策、家畜改良対策並びに消費拡大対策等に引き続き取り組み、畜産経営の安定と本県畜産の振興と継続的發展に努めて参りますので、県並びに関係各位のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

I 畜産経営支援対策事業

1. 畜産経営技術高度化促進事業

畜産をめぐる情勢の変化に対応し、経営感覚に優れた生産性の高い畜産経営体の育成強化を図るため、畜産経営診断の支援、畜産経営情報のデータベース化、畜産経営セミナー・研修会等の諸事業を実施し、経営実態に即した総合的な支援指導を実施します。

2. 畜産特別資金等推進指導事業 大家畜・養豚特別支援資金借受者の経営改善のため、支援協議会の開催、経営改善計画の作成・見直し等の指導を実施します。

3. 肉用牛経営安定対策補完事業（地域における肉用牛生産基盤強化等対策事業）肉用牛生産基盤の強化を図るため、繁殖雌牛の増頭、優良繁殖雌牛の導入、簡易畜舎等の整備を行う生産集団及び肉用牛ヘルパー組織に対して補助し、肉用牛の振興発展に寄与します。

4. 生産基盤拡大加速化事業（肉用牛）

牛肉の国内需要の増加と輸出拡大に対応するため、畜産クラスター計画に基づき、優良な繁殖雌牛を増頭した生産者に対して補助金を交付するため、農協等を対象に事業説明会及び事業参加要望書等の取りまとめを実施し、肉用牛の振興発展に寄与します。

5. 畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業（機械導入事業）に係る事業推進業務

畜産クラスター事業の機械導入事業の円滑な推進を図るため、畜産クラスター協議会等を対象に事業説明会及び事業参加要望書等の取りまとめを実施します。

6. 畜産経営体生産性向上対策事業に係る事業推進業務

酪農家や肉用牛農家の省力化・生産性向上に資するICT関連機械導入事業の円滑な推進を図るため、畜産応援会議等を対象に事業説明会及び事業参加要望書等の取りまとめを実施します。

7. 酪農労働省力化推進施設等緊急整備対策事業（労働負担軽減事業）に係る事業推進業務

酪農労働省力化推進施設等緊急整備対策事業（通称：楽酪GO事業）の省力化機械導入事業及び施設整備事業の円滑な推進を図るため、楽酪応援会議等を対象に事業説明会及び事業参加要望書等の取りまとめを実施します。

8. 肥育牛経営等緊急支援特別対策事業（肥育生産支援事業）に係る事業推進業務

新型コロナウイルス感染症の影響により、牛肉価格が下落し、肉用牛肥育経営体の経営悪化が危惧されています。そのため、所得や営業利益を改善することを目的として、経営体質強化を図る肥育経営体に対して奨励金を交付するとともに、本事業の円滑な実施を図ります。

9. 肉用牛経営災害緊急支援対策事業

令和2年から令和3年までの冬期の大雪被害及び令和3年福島県沖を震源とする地震により被害を受けた肉用牛経営に対して、牛舎及び飼養管理の附帯施設の補改修等に係る費用の一部を補助し、経営継続を支援します。

10. 養豚経営災害緊急支援対策事業

令和2年から令和3年までの冬期の大雪被害及び令和3年福島県沖を震源とする地震により被害を受けた養豚経営に対して、豚舎及び飼養管理の附帯施設の補改修等に係る費用の一部を補助し、経営継続を支援します。

II 家畜衛生対策事業

1. 特定疾病自衛防疫事業推進事業

(1) 各予防疫種

伝染性疾病に対する予防疫種を実施し、疾病発生による損耗防止に努めます。

(2) 自衛防疫推進事業

自衛防疫事業を円滑に推進するため、推進会議及びに各地域指定獣医師定例会を開催し、家畜衛生に関する知識の普及、情報収集、伝達に努めます。

2. 家畜生産農場衛生対策事業

生産農場における牛ヨーネ病の防疫対策、牛伝染性リンパ腫の清浄化対策、牛ウイルス性下痢症及び牛アカバネ病の発生・流行防止対策を推進し、これら疾病による家畜の損耗防止を図ります。

3. 牛疾病検査円滑化推進対策事業

牛海綿状脳症(BSE)を早期に根絶するため、牛海綿状脳症対策特別措置法に基づき、96ヵ月齢以上及び48ヵ月齢以上の起立不能等の死亡牛の検査を実施した所有者等に対し、適正な管理・輸送・処理に係る経費を補助します。

4. 畜産物衛生環境整備円滑化事業

県内で発生する死亡家畜の処理を円滑かつ効率的に流通させるため、一時保管する冷却保管施設及び冷凍運搬車の利用について、死亡牛輸送業者3社及び関係者と協議し、家畜疾病のまん延等家畜衛生上の問題発生を未然に防止し、家畜飼養衛生環境の保全を図ります。

5. 家畜防疫・衛生指導対策事業

(1) 地域自衛防疫取組促進対策事業

地域での伝染病発生時の対応等を支援するため、畜産農家で初動防疫活動、地域特定疾病対策等の検討を行うとともに、生産者段階での防疫演習等の実施、農場立入関連技術者に対する異状畜の早期発見に必要な研修を行い、生産現場における家畜防疫体制の強化を図ることにより、伝染性疾病の発生予防等防疫措置の徹底に努めます。

(2) 地域農場HACCP認証支援事業

県内における農場HACCP認証に取り組む農場に対し、専門家による構築指導を行い、地域における農場HACCP取組の中核となる農家を育成し、普及推進を図ります。

6. 育成馬予防接種推進事業

馬飼養形態の集団化、大規模化及び頻繁な移動等の実態を踏まえ、競馬場入厩前の育成馬について予防接種(馬インフルエンザ)の徹底を図ります。

7. 馬伝染性疾病防疫推進対策事業

競走馬以外の乗用馬等に対する馬インフルエンザワクチン接種及び繁殖牝馬に対する馬鼻肺炎ワクチン接種を推進することにより、生産段階の効率的な馬防疫措置を図ります。

8. 家畜防疫互助基金支援事業

口蹄疫や豚熱等の海外伝染病が発生した場合、生産者が飼養する牛及び豚の淘汰に伴う損失を、生産者による自主的な互助制度により畜産経営への影響を緩和するため、各関係者と連携を図り、互助制度の普及啓蒙を図ります。

9. 獣医師養成確保修学資金給付事業

獣医学を専攻する学生のうち産業動物獣医師を志す者に対し、獣医師養成確保修学資金を給し有能な産業動物獣医師の養成及び確保を図り、宮城県産業動物の診療体制の整備と畜産振興に寄与します。

Ⅲ 家畜価格安定対策事業

1. 肉用子牛生産者補給金制度

肉用子牛生産安定等特別措置法に基づき、肉用牛生産の存立を確保するため、肉用子牛の生産者に対して、子牛の再生産を確保するため一定の条件の下、生産者補給金を交付し、肉用子牛生産経営の安定を図ります。

2. 肉用牛肥育安定基金制度

生産者による「肥育安定基金」を造成し、毎月の肥育牛1頭当たりの粗収益が生産コストを下回った場合に差額の9割を補てんすることにより経営の安定と肉用牛生産基盤の維持拡大に寄与します。

3. 肉豚経営安定交付金制度

登録生産者等を対象とした制度の説明会等を開催し、円滑な推進を図ります。

4. 肉牛事故共助推進事業

全農宮城県本部が販売する肉畜に発生する事故に対し、その損害を補償し肉牛事業の安定を図ります。

Ⅳ 家畜改良事業

1. 宮城県総合畜産共進会の開催

家畜の改良増殖と飼養管理技術の向上を図るため、肉用牛、養豚(枝肉)を対象とした総合畜産共進会を開催します。

2. 家畜人工授精用精液流通調整事業

本県の家畜改良を円滑に推進するため、県内7カ所にサブセンターを設け、優良種雄牛を主体とした凍結精液の供給と液体蜜素の配送を行うとともに、適正使用、計画交配を指導し、家畜改良に係る関連事業の推進と畜産経営の安定と発展に寄与します。

丸森町子牛育成センター完成

丸森町農林課

丸森町筆甫にある町営放牧場内で整備を進めてきた「丸森町子牛育成センター（以下、育成センター）」が、着工から約3年の歳月を費やし、この度完成いたしましたので御紹介いたします。

本町では、平成30年3月に策定した「丸森町農業振興ビジョン」により、農家が主体的、能動的に農業所得を稼ぎ出す「儲ける農業」を推進し、農業産出額50億円を目指しております。

現在、その農業産出額の約6割を畜産が占めており、中でも酪農や繁殖牛が盛んな地域です。酪農家が30戸、繁殖農家が54戸（令和3年3月末現在）であり、恵まれた自然環境を生かして、着実な増頭と規模拡大を進めておりますが、近年の畜産農家の高齢化や減少、担い手不足により、畜産の衰退が懸念されております。

そのため、さらなる増頭を促し畜産農家の経営基盤の強化を図り、持続的な営農を実現するため、育成センターを整備しました。

事業実施にあたっては、草地畜産基盤総合整備事業（公共牧場育成型）を活用し、町営放牧場内の草地整備に加え、最大128頭を収容できる育成牛舎、飼料庫、堆肥舎、看視舎、衛生舎（令和3年完成予定）の整備を行っており、総事業費が約460,000千円（補助率1/2以内）になりました。

【施設概要について】

施設名	建物面積	備考
育成牛舎	882㎡	収容頭数：最大128頭
飼料庫	217.62㎡	
堆肥舎	292.5㎡	
看視舎	36.43㎡	
衛生舎	46.92㎡	収容頭数：最大3頭 ※令和3年完成予定

完成した育成センターは、農事組合法人丸森町酪農振興組合に、これまでの町営放牧場とあわせて、子牛の預託業務のほか、草地管理及び施設管理を含めた運営全般を指定管理することになりました。今後は手間のかかる育成期の子牛を預かることで、畜産農家の負担及び飼養管理コストの軽減を図り、均質な育成による、高品質で生産性の高い畜産経営を実現させるため、町営放牧場と連携しながら、畜産振興に取り組んでまいります。

【料金について】

子牛育成センター

預託区分	利用料金		単位	対象月齢	備考
	町内	町外			
肉用牛	850円	910円	1頭1日	生後3～6か月齢未満での入牧	月齢等による変動なし
乳用牛	900円	960円	1頭1日		

町営放牧場

預託区分	利用料金		単位	対象月齢	備考
	町内	町外			
夏期	310円	370円	1頭1日	生後6か月齢以上18か月齢未満	概ね5月1日～10月31日までの放牧主体の預託形態期間
	370円	430円	1頭1日	生後18か月齢以上	
夏期延長	750円	810円	1頭1日	生後6か月齢以上	概ね11月1日～4月30日までの舎飼主体の預託形態期間



育成牛舎内部



堆肥舎

(農政班 佐藤 秀貴)

仙台市中央卸売市場食肉市場業務開始46周年記念枝肉共進会の受賞結果について

仙台市中央食肉卸売市場株式会社

仙台市中央卸売市場食肉市場において、7月7日(水)に仙台市中央卸売市場食肉市場業務開始46周年記念事業協賛会主催の枝肉共進会が、肉牛250頭・肉豚399頭上場で開催され盛会裡に終了いたしました。関係者各位に改めて御礼申し上げます。

厳正な審査により入賞された方々を紹介いたします。

なお、所属団体、出品者名、枝肉重量、せり単価の順で記載いたします。

【第1部黒毛和種(去勢)の部】

褒賞	所属団体	出品者名	血統		枝肉重量(kg)	せり単価(円)
			父	母方の父		
名誉賞	宮城家畜商出荷組合	(株)川村ファーム	第1花国	安福久	629.0	5,002
最優秀賞	宮城家畜商出荷組合	(株)川村ファーム 高橋 浩	百合久777	安福久	584.0	4,000
	仙台肉牛出荷組合	(資) ばば農場	秀百合久	安福久	565.5	3,048
	仙台肉牛出荷組合	(有)根元ファーム	勝早桜5	安福久	591.5	3,012
	(株)丸市	日下平一	勝早桜5	安福久	696.0	2,976
	J Aみやぎ登米(南方)	村田敏顕	諒太郎	百合茂	590.5	3,144
優秀賞	宮城家畜商出荷組合	(株)川村ファーム	茂勝朗	安福久	693.0	3,075
	宮城家畜商出荷組合	(株)遠藤畜産	幸紀雄	安福久	589.5	2,904
	宮城家畜商出荷組合	日下 誠	福増	安福久	619.0	2,850
	宮城家畜商出荷組合	佐藤信行	勝早桜5	安福久	623.0	2,785
	仙台肉牛出荷組合	(株)川口ファーム	百合白清2	第1花国	652.5	3,058
	J A新みやぎ(大郷)	(同) 村田ファーム	諒太郎	安福久	622.0	2,963
	宮城家畜商出荷組合	(株)日高見牧場	幸紀雄	安福久	588.5	2,777
	宮城家畜商出荷組合	(株)川村ファーム	幸紀雄	安福久	587.0	3,107
	J Aみやぎ登米(南方)	佐瀬 千恵	茂洋美	安福久	576.5	3,003

【第2部黒毛和種(雌)の部】

褒賞	所属団体	出品者名	血統		枝肉重量(kg)	せり単価(円)
			父	母方の父		
名誉賞	J A新みやぎ(栗駒)	鈴木貴弘	幸紀雄	安福久	428.5	5,101
最優秀賞	(株)丸市	(有)斉藤畜産	凜斗福	百合茂	500.0	3,104
	仙台肉牛出荷組合	(有)うしちゃんファーム	実有貴	隆之国	578.5	3,004
優秀賞	宮城家畜商出荷組合	(株)日高見牧場	幸紀雄	安福久	482.5	2,908
	J Aみやぎ登米(南方)	日下正之	聖香藤	茂洋	483.5	2,880
	J Aみやぎ仙南(蔵王)	沼辺吉孝	洋糸波	安福久	522.5	3,200
	J A新みやぎ(大郷)	渋谷光一	諒太郎	徳悠翔	470.5	2,810

【第3部交雑種(去勢・雌)の部】

褒賞	所属団体	出品者名	血統(父)	枝肉重量(kg)	せり単価(円)
名誉賞	宮城家畜商出荷組合	(株)日高見牧場	梅栄福	620.0	1,802
最優秀賞	宮城家畜商出荷組合	(株)日高見牧場	梅栄福	585.0	1,608
優秀賞	宮城家畜商出荷組合	伊藤福美男	豊奨菊	519.0	1,701

【第4部肉豚の部】

褒賞	所属団体	出品者名	品種	枝肉重量(kg)	せり単価(円)
名誉賞	一般	(有)なわや	ハイポー	76.0	2,004
最優秀賞	太平洋ブリーディング(株)	ハイランド牧場小笠原農場	WLD	79.5	954
	丸山(株)	(農) 蔵王ファーム本場	WLD	74.0	954
	伊藤忠飼料(株)	(有)大槻ファーム	LWD	77.5	952
優秀賞	一般	(株)シムコ東日本営業所岩出山事業所	F1	73.5	852
	一般	(有)コマクサファーム	LWD	77.5	854
	丸山(株)	(有)日向養豚	LWD	76.5	856
	昭和畜肉研究会	(有)ケイアイファウム玉山農場	LWD	79.5	852
	全農宮城県本部	(有)三澤屋本店	LWD	78.5	852
	J A新みやぎ(一迫)	千葉房義	LWD	77.5	854

(営業部営業2課 落合 宏幸)

令和4年度宮城県農業大学校入校生を募集（推薦入校試験）

宮城県農業大学校

本校は、農業の近代化と経済社会の発展に対応できる、高度な知識・技術を身につけ優れた農業経営者と農村地域の指導者を育成することをねらいとして、昭和52年4月に「宮城県農業実践大学校」として設立され、平成20年7月には専修学校の機能を付加し、平成21年4月に校名を「宮城県農業大学校」に変更しました。

下記により、令和4年度の推薦入校試験が行われますので、多数の出願をお願いします。

なお、これまでの高等学校長推薦に加え、本県において農業で活躍が期待される人材を広く地域から推薦できる制度（地域推薦）が新設されました。

記

◇募集人員（推薦入校試験・一般入校試験の合計）

畜産学部15名、水田経営学部15名、園芸学部15名、アグリビジネス学部10名

（注）推薦入校試験の募集人員は学部定員の8割程度とします

◇試験区分 学校長推薦〔在学生対象〕、地域推薦〔既卒者対象〕

◇募集期間 令和3年9月1日（水）～令和3年9月15日（水）（当日消印有効）

◇試験日時 令和3年10月1日（金）午前8時45分～

◇合格発表日 令和3年10月11日（月）午前10時

◇試験場所 宮城県農業大学校名取教場

◇試験科目 ①筆記試験 小論文（60分 800字） ②面接試験 個人面接（15分程度）

◇専修学校のメリット ①卒業生に「専門士（農業専門課程）」の称号が付与されます。

②卒業生は、4年制大学への3年次への編入学試験の受験が可能となります。

◇奨学金制度 ①本校を卒業後、宮城県内での就農を予定されている方は、公益社団法人みやぎ農業振興公社奨学金の申請ができます。

②本校を卒業後、就農を予定されている方は、国の事業である農業次世代人材投資事業（準備型）の申請ができます。

③独立行政法人日本学生支援機構の奨学金制度が利用できます。

※上記①～③の奨学金の採択に当たっては一定の要件を満たす必要があります。

入校試験・奨学金等についての詳細は、

宮城県農業大学校教務部学生班・教務班（電話022-383-8138）までお問い合わせください。

〈農業大学校生の抱負〉

将来の抱負

宮城県農業大学校畜産学部
2学年 星塚 啓杜



私は、宮城県農業大学校畜産学部2年の星塚啓杜です。家は農家ではありませんが、祖父は田尻で和牛繁殖をしています。私は幼い頃から牛を見に行ったり、餌やりや触ったりし牛に関わるのが好きでした。牛は好きでしたが、初めから農業の道に進もうとは、考えていませんでした。高校一年生時の将来の夢は美容師でした。しかし、お小遣い稼ぎのつもりで本格的に牛舎の手伝いを始めました。高校生活の三年間手伝いをしているうちに、凄くやりがいのある仕事だなと思い始め、もっと畜産について学びたいと考え、農業大学校へ進学し牛飼いになるという夢に替わりました。

大学校では、畜産の科目だけでなく、教養科目や資格取得、実習など様々なことを学ぶことができます。その中でも、一番学べたと感じたのは、一年生の時の先進農業体験学習です。私が行かせて頂いた農家では水田と和牛繁殖の経営をしており、牛のエサやり、体調管理、繁殖牛の発情兆候の観察など学ぶ事が多く、コロナ禍のため、期間は例年よりも短くなりましたが、充実した22日間を過ごさせていただきました。私は現在2年生になり、卒業論文と削蹄師の資格取得に取り組んでいます。今後削蹄実習が始まるので削蹄の知識だけでなく、牛の扱い方なども学び2級認定牛削蹄師を取得したいと考えています。取得後は、家の牛の削蹄をしたいと考えています。

卒業論文では、新規参入における和牛繁殖の経営シミュレーションに取り組んでいます。新規で経営を開始する際の頭数規模の計算とそれに伴う資金繰りのシミュレーションを行い、初期投資に必要な金額や、初期投資を少しでも抑えるための方法について検討していきたいと考えています。

この先、様々な困難があると思いますが、負けずに進み続け自分の夢を叶えたいと思います。

<New face>

宮城県農政部畜産課

生産振興班 高橋 弘晃



皆さん初めまして。令和3年4月より宮城県農政部畜産課の生産振興班に配属されました、高橋弘晃と申します。

出身は宮城県名取市で、平成29年3月に北里大学の畜産系の学科を卒業しました。大学の研究室では、特定保健用食品の有効性の評価や畜産物利用の研究をしていました。畜産について学んでいくうちに、畜産物をおいしく食べてあげたい!と思うようになり、大学卒業後は4年間食品会社に勤め、食品製造の現場で仕事をしていました。その後宮城に戻ったのを機に、県内で若者が長く働ける仕事を作り出したいと考えるようになりました。そして、大学・社会人での経験を生かせることに加え、家畜の飼育から畜産物の加工・販売など新たな雇用を生み出すチャンスが多いことから畜産分野を志望しました。

趣味は釣り、野球観戦、ドライブで、なかでも釣りは普段は漁港などですることが多いですが、年に数回カレイやヒラメ、青魚を船に乗って釣りに行っています。最近は、野菜作りにハマっており、きゅうり・トマト・なす・ピーマンなどを栽培し、収穫を日々楽しみにしています。

私は配属された生産振興班で肥育牛の県外出荷や、肉用牛集団育種推進事業などの業務を担当しています。これまでずっと立ち仕事をしてきたので、パソコンに向かっての業務はまだ慣れませんが、日々新しいことの連続で四苦八苦しております。また、初めて見聞きする言葉・知識や様々な事業に触れることで、畜産の仕事は多岐に渡るものだと改めて実感しています。まだ至らぬことばかりで、ご迷惑をおかけすることも多々あると思います。ひとつずつ知識・経験を積み重ねていき、畜産関係の方々や農家の方々に信頼される職員になるよう努めますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

畜産試験場 酪農肉牛部

肉牛チーム 佐々木孔亮



はじめまして。今年度4月より宮城県畜産試験場酪農肉牛部肉牛チームに配属されました、佐々木孔亮(こうすけ)と申します。宮城県の高校を卒業後、山形大学農学部に進学し、故郷の大崎市に戻ってきました。大学在学中は畜産学研究室に所属し、極短穂型ホルクroppサイレージ用イネの新品種「つきあやか」などの飼料特性について研究していました。趣味は大学在学中に始めたビリヤードで、土日はたまにマイキューを背負い、ビリヤードのお店に行きます。

実家は非農家で小さな頃から動物が好きという程度の理由で畜産学研究室に入った私ですが、日々畜産について学んでいくうちにそのおもしろさに気づき、畜産に関する職に就きたいと考えるようになりました。大学3年生の夏、インターンシップで山形県の試験場を訪ねたとき、初めて種雄牛を見ました。大学の農場にいる小さな牛達とは違い、大迫力の牛でした。この大きな雄が出す小さな精子が日本の誇る和牛肉の元になっていると聞かされ、是非とも故郷である宮城県の種雄牛に関わりたいと思い、宮城県職員を目指すようになりました。様々な配属先がある中、希望通り、畜産試験場に配属が決定したときはとてもうれしかったことを覚えています。

現在は先輩方に様々なことを教えてもらいながら、業務に励んでいます。和牛審査や枝肉、凍結精液に関する事など新鮮なことばかりなのですが、特に農家さんと関わっているときが最も新鮮な気持ちになります。色んな農家さんがいて、その全員が宮城県の和牛肉生産を支えているのだとわかり、私もその役に立ちたいと思いました。今はまだ貢献するどころか足を引っ張ってばかりですが、できるだけ早く、知識を蓄え、技術を習得し、宮城の和牛発展に貢献したいと考えています。どうぞよろしくお願いたします。

NAR 地方競馬全国協会 岩手競馬(盛岡・水沢開催)8・9月 開催予定表

Table with 31 columns (days) and 2 rows (August and September) showing race dates and locations (盛岡).

※開催期間中の重賞レース

- 8/1(日) 第43回せきれい賞 8/8(日) 第35回ひまわり賞(オークス) 8/9(月) 第26回クラスタースタールカップ
8/15(日) 第22回若鮎賞 8/22(日) 第9回イーハトーブマイル 8/29(日) 第47回ビューチフルドリーマーカップ
9/5(日) 第53回不来方賞 9/7(火) 第39回ピギナズカップ 9/12(日) 第29回青藍賞 9/14(火) 第1回いしがきマイルレース
9/20(月) 第23回ジュニアグランプリ 9/26(日) 第8回ヴィーナススプリント 9/28(火) 第23回岩手県知事OROカップ

〈畜試便り〉

令和3年度 新規基幹種雄牛「安百合幸」^{やすゆりさち}「勝秀好」^{かつひでよし}「勝美桜1」^{かつみざくら}について

宮城県畜産試験場

畜産試験場で繋養している種雄牛、「安百合幸」(写真1)、「勝秀好」(写真2)及び「勝美桜1」(写真3)が、新たに本県の基幹種雄牛に選抜されました。現場後代検定成績(表1)では、いずれも枝肉格付の肉質等級4・5率が100%で優秀な成績でした。今回紹介する3頭は、秀でた産肉能力や体型的特長を持ち合わせており、肉用牛の育種改良の推進や優良牛の増産、さらには「仙台牛」のブランド力や名声の向上等に貢献できるものと期待します。

【安百合幸プロフィール】

「安百合幸」は、父に「百合茂」、母の父に「安福久」、母の母の父に「金幸」の血統構成で、県有種雄牛においては、初の「百合茂」産子です。現場後代検定(去勢9頭、雌11頭)成績では、雌産子の平均枝肉重量が歴代第1位で、ロース芯面積、歩留基準値及び脂肪交雑が去勢産子を上回りました。産子の枝肉は、ロース芯の脂肪交雑の形状が小ザシ、内腿のヌケの良いものが散見されました。また、「安百合幸」は、茂金系種雄牛を父に持つ繁殖雌牛へ交配がしやすいのも魅力です。ただし、一番頭数が多い「百合茂」を父に持つ繁殖雌牛への交配は、近交係数が高くなるので注意してください。

【勝秀好プロフィール】

「勝秀好」は、父に「好平茂」、母の父に「百合茂」、母の母の父に「勝忠平」の血統構成で、昨年度の「好久勝」に次ぐ「好平茂」の後継種雄牛です。現場後代検定(去勢8頭、雌7頭)成績では、本県の後代検定史上最高の枝肉重量679kgを記録し、ばらの厚さの平均値9.9cmは歴代第1位を獲得しました。父「好平茂」の成績を上回り、さらに、兄「好久勝」と比較し、枝肉重量以外の形質で上回りました。「勝秀好」の体格は小さめですが、産子の枝肉は、筋肉の厚みがあり見栄えするものが多く特筆すべきことです。「好平茂」を父に持つ繁殖雌牛だけではなく、「勝忠平」を父に持つ繁殖雌牛との交配でも近交係数が10%を超過しますので注意してください。

【勝美桜1プロフィール】

「勝美桜1」は、父に「勝洋」、母の父に「勝忠平」、母の母の父に「安平」の血統構成で、初めての「勝洋」の後継種雄牛です。現場後代検定(去勢16頭、雌8頭)成績は、父牛「勝洋」を上回りました。「勝美桜1」は、第11回全国和牛能力共進会第1区若雄の部に出品し、優等賞7席に輝き、登録得点は、種牛性42.88が肉用種の特徴42.64を上回りました。このことから、産子は、体上線や均称など体型的改良が期待されます。また、今後のデータ蓄積が待たれるところですが、現場後代検定材料牛では、全国的に関心が高い牛肉のおいしさに関わる「脂肪の質」が優れており、脂肪交雑+ α 形質を合わせ持つことが期待されます。「勝洋」を父に持つ繁殖雌牛への交配は、近交係数が高くなるので注意してください。

表1 現場後代検定成績

	出荷月齢	①枝肉重量 (kg)	②ロース芯面積 (cm ³)	③ばらの厚さ (cm)	④皮下脂肪厚 (cm)	⑤歩留基準値	⑥脂肪交雑 (BMS No.)
勝美桜1	29.6	506.0	71.3	8.7	3.1	75.4	8.9
安百合幸	29.3	525.4	73.7	8.9	2.3	76.3	9.5
勝秀好	30.2	512.1	71.5	9.9	2.9	76.3	9.5
(参考) 全国平均	29.3±1.8	464.0±60.3	58.7±10.1	7.8±1.0	—	—	6.5±2.2
(参考) 好平茂	30.3	489.0	67.4	8.7	2.6	75.5	8.0
(参考) 勝洋	30.1	473.8	67.3	8.5	2.8	75.4	8.0

①重い方がよい ②大きい方がよい ③厚い方がよい ④少ない方がよい ⑥高い方がよい
 全国平均は、令和2年3月までに出荷された広域後代検定雄牛の調査牛及び同期牛の平均値



(写真1) [左上]「安百合幸」と[左下]産子の枝肉写真(去勢 BMSNo.12) (写真2) [中上]「勝秀好」と[中下]産子の枝肉写真(去勢 ばらの厚さ11.3cm BMSNo.12)
 (写真3) [右上]「勝美桜1」と[右下]産子の枝肉写真(去勢 BMSNo.12)

【現場後代検定材料牛における生時の大きさに対する生産者の意見】

現場後代検定材料牛巡回調査の際に、今回の新規基幹種雄牛産子の生時の大きさについて、聞き取りしたところ、生産者の意見5区分(大きい、大きめ、普通、小さめ、小さい)は、表2のとおりでした。

表2 新規基幹種雄牛の産子における生時の大きさに対する生産者の意見

性	区分	勝美桜1 (13頭)	安百合幸 (10頭)	勝秀好 (4頭)	性	区分	勝美桜1 (16頭)	安百合幸 (11頭)	勝秀好 (7頭)
去勢	大きい	15.4%	20.0%	25.0%	雌	大きい	6.3%	18.2%	0.0%
	大きめ	0.0%	20.0%	0.0%		大きめ	0.0%	18.2%	28.6%
	普通	61.5%	20.0%	50.0%		普通	31.3%	36.4%	28.6%
	小さめ	15.4%	20.0%	25.0%		小さめ	6.3%	27.3%	14.3%
	小さい	7.7%	20.0%	0.0%		小さい	56.3%	0.0%	28.6%

【家畜人工授精用凍結精液配布時期】

家畜人工授精用凍結精液の一般配布開始時期は、8月を予定しています。

(酪農肉牛部肉牛チーム 渡邊 智)

.....
〈人の動き〉

宮城県

令和3年6月1日付

新	旧	氏名
畜産課	北部児童相談所	塚口 紗季
企画部統計課	畜産課	山田 真未

宮城県農業共済組合 (NOSAI宮城)

令和3年7月1日付

新	旧	氏名
県南家畜診療センター診療課技師	家畜診療研修所診療指導課技師	大澤 里菜
中央家畜診療センター診療課技師	家畜診療研修所診療指導課技師	天野 真衣
県北家畜診療センター診療課技師	家畜診療研修所診療指導課技師	徳永 朱里

〈衛生便り〉

牛伝染性リンパ腫（旧名「牛白血病」）について

仙台家畜保健衛生所

牛伝染性リンパ腫とは、「地方病性（成牛型）」と「散発型」に分けられます。散発型は原因不明とされますが、農場で多く見られる地方病性は、牛伝染性リンパ腫ウイルスによるものです。このウイルスに感染した牛のうち、発症するのは数%ですが、発症した場合、体表リンパ節の腫脹・削瘦・眼球突出・乳量減少・下痢等を呈し多くは予後不良となります。治療法やワクチンはありません。見た目に異常が認められない場合でも、と畜場の検査で発見された場合は全部廃棄となり、飼養農家の経営に大きな影響を及ぼします。家畜伝染病予防法の届出伝染病に規定されている本疾病は、全国的に発生が増加しており、宮城県においても届出頭数は、年々増加傾向にあります。（表1）

牛伝染性リンパ腫ウイルスは、感染牛の血液や乳汁により伝播され、分娩や哺乳による母子間、出血を伴う除角・去勢・削蹄等の処置の他、アブやサシバエ等吸血昆虫による媒介により農場内での感染が拡大します。感染防止対策には、①分娩・ほ乳時の作業による感染ルートの遮断、②除角・去勢等実施後の確実な止血処置と使用器具の洗浄・消毒、③吸血昆虫対策、④感染牛・非感染牛の分離飼育、⑤日常作業順序の徹底（非感染牛から）等があります。

農場内の清浄化対策を行うには、飼養牛全頭の血液の抗体検査により、感染状況を把握した上で、先に述べた感染防止対策を行いながら、感染牛の計画的な淘汰と更新（非感染牛の導入）が必要となりますが、農場内の感染状況によっては、清浄化達成まで数年以上かかる場合もありますので、中長期的な取り組みが大切です。

家畜保健衛生所では、感染拡大防止に向けた取り組みを支援しておりますので、農場内の清浄化を考えている方はご相談ください。

表1 宮城県の牛伝染性リンパ腫の届出戸数・頭数

年次	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
戸数（戸）	72	34	41	28	48
頭数（頭）	73	76	95	110	141

(防疫班 結城 瑞希)

令和3年度宮城県総合畜産共進会開催のお知らせ

一般社団法人宮城県畜産協会

農林水産祭参加 令和3年度宮城県総合畜産共進会を下記日程により開催いたしますこととなりましたので、ご案内いたします。なお、乳用牛の部は中止となりました。

記

- 1 肉用牛の部 ・会 期 令和3年9月8日（水）
・場 所 みやぎ総合家畜市場（美里町）
- 2 肉豚の部 ・会 期 令和3年10月6日（水）～8日（金）
・場 所 （株）宮城県食肉流通公社（登米市）

本共進会は、新型コロナウイルス感染症対策として原則無観客で行い、事前登録者のみ来場できますので、一般の方々の観覧はご遠慮くださいますようお願いいたします。

価格安定対策事業の発動状況について

一般社団法人宮城県畜産協会

◎肉用牛肥育経営安定交付金（牛マルキン）の交付金単価

（単位：円）

販売月	肉専用種（宮城県）	交雑種（全国）	乳用種（全国）
令和3年4月（概算払）	(0.0円)	(0.0円)	(33,157.4円)
5月（概算払）	(8,016.0円)	(0.0円)	(21,420.5円)

※令和2年5月以降の肉専用種は、積立金不足により国費分のみ（3/4相当額）の支払いとなります。